

項目	自己評価	中期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況 未達成	改善方策	学校運営協議会による評価	評価		
確かな学力	S ・ A ・ B ・ C	①知識・技能の確実な定着と、応用力・活用力の育成 ・全国及び県学力定着調査 +5P、「授業がわかる」強い肯定55%以上 ②主体的・対話的で深い学びの確立 「学習のまとめや振り返りを自分の言葉で表現することができた」「目的にそった話し合いや意見交流により、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」強い肯定60%以上 ③粘り強く継続的な学習姿勢の育成 ・家庭学習時間30分未満5%以内、90分以上65%以上 ④ネットワーク環境を使った授業、家庭学習指導ができる教員80%以上 【学力向上】	①講師招聘の全校研を行い、指導をおおぎ、実践を共有する。(ユニバーサルの視点を含む) ・大栃の授業スタンダードの質の向上を図るために効果的な実践、生徒や家庭への働きかけの方向性を示す。 ②週1回のチーム会、隔週のチーム長会の実施。 ③保護者に「授業スタンダード」「学校生活7カ条」の配付及び説明を行う ・生徒に「授業スタンダード」を説明、全員に配布し、教室にも掲示。授業者も生徒も授業スタンダードを意識して授業に臨む。 ④1人1台のタブレットを授業で有効活用する。 ・授業でのICTを活用しての課題提示。学習の進捗の把握。 ・ネットワーク環境を使った授業、家庭学習にネット学習を取り入れる。	①市実態調査「授業の内容がわかる」5教科の全ての教科 強い肯定55%。 ②授業評価アンケート ・授業力チェックシート「学習のまとめや振り返りを自分の言葉で振り返ることができた」強い肯定55% ・「目的にそった話し合いや意見交流により、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」強い肯定55% 市実態調査 ③家庭学習時間(平日の勉強時間) ・90分以上(60%以上)、30分未満(8%以内) ④学校独自アンケート ・タブレットを使った授業ができる教員60%以上 ・ネットワーク環境を使った家庭学習ができる生徒60%以上	①「授業の内容がわかる」5教科の全ての教科(最肯定)18.5%~44.4% ②「学習の振り返り最肯定36~50%(全教科未達成)」「自分の考えを深めた」最肯定33~68%(社数英未達成) ③家庭学習時間(平日の勉強時間) ・90分以上(52%)、30分未満(15%) ④タブレットを使った授業ができる教員100%、ネットワーク環境を使った家庭学習ができる生徒89%	・授業スタンダードの徹底。「めあて」と「振り返り」の徹底を行う。 ・考えを深めることのできる話し合いの場面の重点的な取組、探究的な学習に向けての研究を進める。特に、質問2項目の重点的な取組を行う。 ・授業や家庭学習は、小学校との系統性を持った取組を進める。 ・教科間連携、小学校の一貫教育を継続する。 ・講師招聘による授業の質の向上を図る。 ・ICT分野は、先進的な取組・研究を推進する。	①個人カルテの作成及び活用が不透明。 ②家庭学習時間(90分)が未達成の生徒が多い。改善方策を定着させ、生徒の学習意欲を高め、学力向上へ繋げて欲しい。 ③小5・6年の受け入れ態勢を充実させて、中1のスタートがスムーズに進められるように系統性を持った取り組みをお願いしたい。	S ・ A ・ B ・ C		
		①郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情の醸成(肯定的評価90%以上) 「地域のために貢献できる人間になりたい」「将来の夢や目標を持っている」「自分の考えや思いを伝えることができる」「自分の良さがわかる」 「学びや経験を将来につなごうとしている」 ②学校生活の充実、Q-U学校生活不満足群4%以内 【自尊感情】	①教職員研修により、教育力・指導力を高める ・自尊感情(2回)・道徳力(1回) ・保護者・地域が参画できる道徳参観日の実施 ②仲間づくり・集団づくりを通じていじめを生まない学校を創造する。 ・トラブルが起こった時の迅速な対応を行う。 ・いじめ防止推進委員会の開催(月に一度及び適宜)	①キャリアアンケート(肯定的評価) ・自分の良さがわかる(70%) ・人の役に立つ人間になりたい(90%) ②いじめの解決率100% ・「学校が楽しい」肯定的評価90% ・Q-U学校生活不満足群10%未満	①「自分の良さがわかる」肯定63%、「人の役に立つ人間になりたい」肯定96%、 「自分の判断や行動を信じていることができる」肯定71% ②いじめの件数0件(1月末現在)、 「学校が楽しい」肯定89% ・Q-U学校生活不満足群20%	・講師招聘による道徳校内研修により、教員の資質指導力の向上を図る。 ・「物部がめざす子どもの姿」の見直しを図る。 ・集会等での仲間づくり、「魅力」の研究の推進を図る。 ・地域を理解し、主体的に地域に貢献できる生徒の育成を「行事」を中心として進める。	①改善方策の通り取り組んで欲しい。 ②物部町以外の取り組みも視察研修等を行い、これまでの「行事」の改善にも取り組んで欲しい。 ③生徒は、明るく、地域の方と接するにも素直に受け入れ楽しく活動できている。ただ、もう少し積極的に、自分の考えを発言したり、進んで行動できるなど、一人一人が逞しく育って欲しいと思う。		S ・ A ・ B ・ C	
		①運動意欲を高め、体力の向上を図る(強い肯定的評価の割合) ・「体育の授業が楽しい」80%以上、「部活動が充実している」45%以上 ②全国体力・運動能力・運動習慣調査では、全国平均を上回る ③基本的な生活習慣の確立 ゲーム・スマートフォン・テレビの時間 2時間以内60%以上 <基本的な生活習慣・体力向上>	①②生徒が主体的に取り組むことができる体育的行事の実施により運動意欲を高める。 ・物部地域学校協働本部との協働により活気ある地域と共にある運動会の実施 ③配付物や掲示物を活用し、家庭との連携により望ましい生活習慣を確立する。 ・保・小・中合同子育て講演会を実施する。 ・ネットの弊害を学習の際に生徒と考える。保護者に話す機会を持つ。	①授業意識調査(強い肯定の割合) ・「体育の授業が好き」80%以上、「部活動が充実している」40%以上、保小中合同運動会「満足した」肯定的評価95%、マラソン大会「満足した行事」肯定的評価95% 市生活実態調査 ②全国体力・運動能力・運動習慣調査では、全国平均以上 ③ゲーム・スマートフォン・テレビの時間2時間以内50%以上 ・午前7時までに起きている生徒80% ・朝食を食べている割合95%	①(強い肯定)「体育の授業が好き」67%、「部活動が充実している」52%、保小中合同運動会やマラソン大会で、生徒は満足いく振り返りがされた。 ②全国体力・運動能力調査は、コロナにより実施・結果の返却が遅れている。(校内分析)投能力や柔軟性に課題が見られる。 ③ゲーム等の時間2時間以内57%、午前7時までに起きている生徒83%、朝食を食べている割合100%	・継続して、部活動及び体育的行事で生徒が主体的に動けるように進める。 ・保護者・生徒・教職員の協働による生活習慣の確立を図る。 ・情報モラル教育を情報教育を推進しながら学ぶ。また、SNS等の研修を保護者にも呼び掛ける。	①改善方策のとおり推進して欲しい。 ②①の経営目標と達成状況を比べてみると指標が達成できていない。また、目標に対する指標の設定が低い。 ③生活習慣については、引き続き「物部っ子生活リズム計画」を生徒と家庭に啓発する。また保護者と生徒と一緒にメディアへの対応について講演を聴く機会を持ち、ゲーム等の弊害について意識を高め、家族で共有できるように進めて欲しい。			S ・ A ・ B ・ C
		①「大栃保・小・中学校運営協議会」及び「物部地域学校協働本部」の一体的な取り組みを継続的に行うことで持続可能な「地域とともにある学校づくり」を確立する。 ②保護者間の交流を図ることで、子どもの成長を育むためのPTA活動を活性化していく。PTAの中小合併。 ③紙媒体やメールやホームページ等を使って、積極的に情報発信する。 【郷土愛】【コミュニケーション力】	①学校運営協議会の計画的開催(6回)と教職員との熟議の実施、小学校と連携した取組 ・物部地域学校協働本部の計画的開催(年3回)と各部会の活性化による協働の推進 ・物部地域ボランティア委員の確保と幅広く継続的な地域学校協働活動の推進 ②「熟議・協働・マネジメント」を中心とした「チーム物部」により資質・能力を育む。 ③PTA活動の研究、小中での行事等の精選、合同PTA役員会(年3回) ④学校だよりや、ホームページ、Facebookを使って、学校の様子や一貫の取組を保護者や地域に伝える。	①生徒アンケート結果・自尊感情(肯定的評価・95%以上) ・自分の住んでいる地域が好き ・地域の方々に感謝している ・地域のために貢献できる人間になりたい ②参観日等の小中合同開催が計画できたか。次年度合同に向けた準備2学期末段階80%以上。 ③学校評価(肯定的評価・保護者90%以上) ・学級や学校の様子をたよりなどで積極的に知らせているか	①運営協議会は6回の予定、12月の熟議は中止。 「自分の住んでいる地域が好き」肯定92%、「地域の方々に感謝している」肯定100%、「地域のために貢献できる人間になりたい」100% ②参観日等の小中合同開催「道徳、人権参観日、学習発表会」。合同PTA組織の準備はほぼ完了。 ③「学級や学校の様子をたよりなどで積極的に知らせているか」肯定・保護者96%	・大栃保・小・中学校運営協議会を年6回、教職員・保護者・委員による熟議を実施する。物部地域学校協働本部を年3回(総会)、各部会を実施する。 ・PTA活動、子育て講演会、人権参観日等を実施する。 ・行事・活動は、生徒の主体性を伸ばすよう努め、自尊感情を育てる。 ・情報発信は、たより、HP、facebook、メールを使う。また、状況に応じて、リモートでの配信を進める。	①生徒が地域に向き、地域の課題解決に主体的に取り組む機会をつくり、地域の現状を理解し、地域の活性化に向けて地域の方と共活動するなど、「地域とともにある学校づくり」に積極的な取り組みができている。 ②「自分の住んでいる地域が好き」92%「地域の方々に感謝している」「地域のために貢献できる人間になりたい」100%と肯定的な回答があり、生徒の前向きな姿勢にとっても嬉しく思った。			
①保育から中学生までの15年間の学びが系統的に実施できる。系統表の完成と実践。 【チャレンジ精神】	①保小中一貫教育の推進 ・中山間の特色のある学校づくり(県指定)を活用した系統的生活・総合的な学習の研究 ・小学校への授業の乗り入れ、小学生の受け入れ ・教員の授業研究、小学校との合同研修	①生徒の意識調査(肯定的評価・80%以上) ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦している ・将来の夢や目標を持っている ・自分からすすんで人に挨拶できる ・自分の考えや思いを伝えることができる ①子どもの交流活動(肯定的評価) ・「中学校生活が楽しみである」(5・6年生アンケート 10月実施 80%以上) ①教職員の交流 合同研修会(年3回)、合同連絡会(年2回)	①「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」肯定83%、「将来の夢や目標を持っている」肯定71%、「自分からすすんで人に挨拶できる」肯定88%、「自分の考えや思いを伝えることができる」肯定79% ①子どもの交流活動(肯定的評価) ・「中学校生活が楽しみである」(5・6年生アンケート71%) ①教職員の交流 合同研修会(10回)、合同連絡会(2回)、月1定例会の実施	・行事の整理と合同開催の研究を積極的に進める。(運動会、マラソン、参観日) ・小学校外国語の授業への中学校教員の乗り入れ、小学5・6年生の受け入れを行う。総合的な学習の時間やICT分野等での小学校との相互支援。 ・合同授業研究と研究授業の実施。 ・小学校との系統だった「総合的な学習の時間」の整理と充実につなげる。	①改善方策のとおり推進して欲しい。 ②保小中施設分離型での一貫教育を実施するためには、教職員の方は、大変ご苦労されていると思います。15年間の学びが系統的に実践できることに期待しています。	S ・ A ・ B ・ C				

※評価欄 評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表